

木と私たち

第2回講座 森林と木材利用について

日時 平成26年7月6日(日) 14:00~16:00

場所 鶴瀬公民館いきいき活動室

参加者 15名

テーマは樹木と環境の勉強会でしたが、講師の都合もあり、埼玉県出前講座“森林と環境の勉強会”として県の職員2名に来ていただきお話を聞きました。

■埼玉県の森林と木材

富士見市の森は8,500ha(1ha=100m×100m)で埼玉県の森林は西部(八高線の西側)に片寄っている。

1. 奥地林 標高1000m以上 三宝山 埼玉県で高い山2483m
国有林 秩父しおじの原生林 樹齢数百年カツラの巨木
2. 山地林 森づくり課の活動対象
西川林業 西川材 ブランド
飯能 間引きして残す 吉野杉が有名だが、100年ほど遅れての林業
県民の森(横瀬) 昭和30年から40年代に植林
3. 平地林は近隣では三芳町の三富地区
300ha 落ち葉は畑の堆肥

人工林はスギ、ヒノキが49%、クス、ケヤキが49%、竹 1%の割合。
スギは花粉の問題から6300haの削減を目指している。花粉発生が少ない品種も1%程度ある。

林業は40年から50年サイクルの仕事で五ヵ年計画を立てて間伐、治山を雨対策にすべく取り組んでいる。

○自動車税の一部利用による”みどりの再生“

自動車税を活用して。平成 25 年度は 890ha を再生、学校、街路樹など 251カ所の緑化がなされました。

県民参加 165 団体が活動

○最近の問題は獣害

特に鹿の増加や埼玉県では 3 年程前から熊が樹皮を剥がし樹液を舐めることで立ち枯れする木が増加している。鹿は丹沢山系から移動してきているようだ、駆除をするにも猟師が少なくなっており対策が検討されている。

鹿の処分 ①捕獲数の確保 10年前は200頭、平成18年は1300頭、今年3000頭を計画、捕獲した鹿肉の利用を検討。

■埼玉県産材の木材の利用推進

平成24年 84000m³ H14から増加傾向であるが規模が小さい。

木材の価格は昭和55年がピーク

現在はヒノキとスギの価格差は小さくなった。

木造の家を建てるときの木材の価格比は全体費用の10%から15%に過ぎない。

埼玉県の木材は供給量が少ない。

毎年200haを切っていることになる。1haで50年生が300~400立方取れる。



木材の価格は外国材に押され、40年前の価格と変わらない。

国内の材木は工務店で利用されていたが、家の作り方が変わり、ハウスメーカーは企画に合った木材を大量に必要としたことで外国材が主流となって、国内の林業が衰退した。

利用推進は民間と公共施設での利用があるが、市町村の方針により温度差がある。木材利用推進法に基づく「市町村方針」の策定状況の資料（別紙）で県西部は24町村が策定済みであるが、富士見市の近隣では三芳町、志木市が策定

済み、さいたま市、川口市が検討・策定予定。富士見市も趣旨説明を受けていますが7月現在では策定されていません。

富士見市はみずほ学園、春日部市はふれあいキューブなどが紹介された。

木造住宅での県産材（50%利用）平成24年度で308戸頭打ちの状況、工務店での着工数が増えない。